

武漢事務所便り週間新聞記事報告 2010.11.20-2010.11.26 28号

2010年11月21日付け「大楚ネット」より

武漢緑化工事が今日からスタート

今冬から来春にかけて10万本の木が植えられる

最近、盧溝橋路と六合路に70本余りのプラタナスが新しく植えられた。これは今冬から来春にかけて、武漢市が緑化事業に着手する予定である。

今冬から来春にかけて、合わせて10万本の樹木が植えられる予定である。木の直径は15センチから20センチほどで、2～3年の歳月で木陰ができるほどに成長する。プラタナス、くすのきなど全て地元産の樹木が400余りの街路を覆う。そのうち、沿江ビジネス区などの一部の街路では古い樹木を植え替え、建設大道、解放大道などの街路では、現有の緑地に新たに植樹が行われる。

また、この緑化事業は武漢市内105ヶ所の古い住宅団地でも実施する予定である。園芸部門は、緑化推進機関にも同時期に行うよう呼びかけている。

2010年11月20日付け「武漢ネット」より

IBMは武漢での投資を拡大する予定

先日、湖北省副書記、市委員書記楊松氏は市委員会議センターにてIBMグローバル副總裁の范宇氏一行と会見を行った。IBMは今後「武漢(東西湖)総合物流中公共情報プラットフォーム」を拡大し、さらに武漢市に研究開発拠点を建設する予定である。

楊書記は「武漢・広州間の高速鉄道、また来年から再来年にかけて開通する武漢から北京、上海、重慶、成都などへの都市高速鉄道により、武漢を中心とする“4時間経済圏”を形成し、10億人に恩恵をもたらし、全国のGDPのうち9割を生産する。武漢の国家総合中枢としての地位を大幅にアップし、さらに物流発展に大きなチャンスを与える。また、武漢の情報産業の著しい発展は、重要な経済成長要因となる。IBMはこの貴重なチャンスを捕らえ、武漢での投資拡大を希望している。」と述べた。

范總裁は「武漢の将来的発展は計りしれないものであり、IBMは『武漢(東西湖)総合物流中枢公共情報プラットフォーム』をさらに拡大し、華中地域さらには“4時間経済圏”の物流情報プラットフォームとなる。それと同時に、武漢の豊富な科学教育資源を十分に生かし、『第十二次五ヶ年計画』の重点内容に基づき、特に低炭素産業の発展に応じて、科学研究拠点を建設する。」と述べた。